

# 土地・新築戸建でやや悪化

## 第3回 石川県不動産市況DI調査

石川県不動産鑑定士協会と石川県宅地建物取引業協会は、第3回石川県不動産市況DI調査結果（基準日：17年4月1日）をまとめた。

それによると、地価動向（県全体）について、今回の住宅地のDI値はプラス19・2ポイントとなり、前回を上回り実感値は良好、ただし予測値（17年10月1日）はプラス7・5ポイントと悪化。商業地もプラス37・8ポイントと実感値は良好、予測値はプラス16・6ポイントと悪化を見込む。不動産取引市場の動向

（県全体）は、土地・新築戸建はプラス4・8ポイントと実感値はやや悪化、予測値はマイナス1・2ポイントと悪化。中古マンションはマイナス18・4ポイントと実感値は悪化、予測値はマイナス16・4ポイントとやや改善。中古戸建はマイナス8・1ポイントと実感値は悪化、予測値はマイナス0・5ポイントと改善を見込む。また、不動産賃貸市場

の動向については、店舗・事務所の家賃はマイナス15・9ポイントと実感値は改善、予測値はマイナス16・6ポイントとやや悪化。空室数はマイナス9・2ポイントと実感値は改善、予測値はマイナス10・2ポイントとやや悪化。一方、共同住宅の家賃はマイナス29・6ポイントと実感値はやや悪化、予測値はマイナス26・1ポイントとやや改善。空室数はマ

イナス7・8ポイントと実感値は悪化、予測値はプラス1・0ポイントと改善を見込む。主な意見では「野々市市の土地価格が高く、物件も少ないため、需要と供給のバランスが取れていない」「新幹線開業により、金沢市内のマンションは高値で取引されている」「金沢駅周辺は引き合いは多いが、市郊外は不振」などがあった。